

平成27年度第1回通常理事会、平成27年度定時評議員会議決

平成26年度 事業報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会

平成26年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

ついでには、定款に定める事業に沿って「平成26年度事業報告」を致します。

平成26年4月1日より平成27年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告

仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

◆ 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇ 「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に「仏教思想」を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語となった。また聖典を現代に即した内容にするため、平成26年度はシンハラ語を改訂した。引き続き、カンボジア語・チベット語・アラビア語等の改訂を進めている。

◇ 「仏教聖典」の普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動は、国内のホテル45軒、海外のホテル203軒より新規申し込みを受け、補充とあわせた平成26年度の寄贈冊数は、国内約17,000冊、海外約31,000冊であった。ホテル累計寄贈数は国内外あわせて64の国と地域約13,500軒・3,718,000冊に至った。

また、仏教的情操教育を喚起するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、平成26年度は、大学・高校約90校、保育施設260園を中心に、約60,000冊を寄贈した。これで平成24年度からの頒布開始以来、3年間の寄贈数累計は223,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約60%、120校に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として約9,000冊販売した。

次に『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブッダのおしえ』を全国の有名観光寺院、ミュージアム、学校等に約176,000冊（日本語版139,000冊、英語版37,000冊）寄贈した。

累計寄贈冊数は日本語版約346,000冊、英語版約69,000冊となった。

◆ 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

◇ 欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を進めている。日本の英訳大蔵経編集委員会と米国仏教伝道協会に設置の英訳大蔵経出版委員会との協

カ体制のもと、第1期分139典籍のうち 翻訳を完了した87典籍を受領、内 75典籍を46巻の「英訳大蔵経」として出版している。残り52典籍は翻訳進行中である。

さらに、インターネットで検索可能なデジタルデータとして、大正新脩大蔵経テキストデータベース（通称：SAT）との連携で英訳大蔵経 18典籍をSAT上にて対訳公開している。また、仏教伝道協会のホームページ上でも40典籍のPDFデータでの閲覧を可能にし、国内外の仏教研究者への利便性を高めている。

◆その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇ 仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へカレンダー・仏教書籍を制作、頒布している。

平成26年度は、「一日一訓カレンダー」ハ正道シリーズ3冊目の「正語」を刊行し、156,000部を頒布した。尚、今回より色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすくなるよう、ユニバーサルデザインを採用した。併せてカレンダー解説書—みちしるべ『正しいことば - 正語 - 』（執筆者 西村恵信 花園大学名誉教授）を教化教材として刊行し、91,000冊を全国の寺院に頒布した。

さらに、設立50周年記念刊行物として、既刊みちしるべの中から名講話50編を選出し、「智慧」と「慈悲」をテーマに『みちしるべ名講話選』と題して2巻で出版予定の第1巻目『ちえ—智慧』（25編）を刊行した。

また、同じく記念企画として、「2016年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。これは写真を通してより多くの人びとに仏教に親しむ機会を提供する事を趣旨としたものである。題材は仏教に由来するカレンダーの31の文言からイメージされる自然風景等のネイチャーフォト、工芸品などの静物とし、『日本カメラ』などの雑誌、ホームページや仏教系大学写真部などへ広く一般公募し、平成26年1月から8月末までの応募期間中に500件 1,409枚の応募があった。平成26年9月8日に審査委員会を開催、厳正な審査の上、入選作品31点を選定した。これら入選作品は、平成27年度に発刊される「2016年一日一訓カレンダー」に掲載される。

次に平成24年に出版し大変好評であった学習マンガ『仏教のひみつ』の英訳版『The Wisdom of Buddhism in Japan』を発刊した。来日する外国人、また海外在住の日系人など、英語圏の人びとへの日本仏教入門書として活用する。

仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

◆留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

奨学生が自国に戻り日本で学んだ仏教精神とその文化を広く伝えて戴きたいとの願いから、日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

毎年世界の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付して依頼、およびホームページで一般公募を行い、仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により原則毎年2名選定、奨学金を支給している。

募集の結果、11名から応募があり、平成26年度は、平成26年2月5日に開催された外国人留学生奨学金審査委員会での公正な審査、決定に基づき、Anton Luis Capistrano Sevilla氏（アントン・ルイス・カピストラノ・セビリア、フィリピ

ン国籍、総合研究大学院博士後期課程)、Mónika Kiss氏(モニカ・キシユ、ハンガリー国籍、大谷大学研究員)、Van Anh Thi Vo氏(ヴァン・アン・ティ・ボ、ベトナム国籍、龍谷大学大学院博士後期課程)の3名に支給した。

◇日本人留学生奨学金制度について

日本人の学者や研究者が海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学び、将来世界のこの分野で大きく貢献してくれることを期待して、日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付して依頼、およびホームページで一般公募を行い、仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により原則毎年2名選定、奨学金を支給している。

募集の結果、6名から応募があり、平成26年度は、平成25年12月9日に開催された日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査、決定に基づき、岸 清香氏(ライデン大学地域研究研究員)、渡辺俊和氏(オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想史研究所研究員)の2名に支給した。

◆顕彰事業に関する事項

◇仏教伝道文化賞について

国内外を問わず、仏教精神、仏教文化、仏教学術及び布教伝道など仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、また今後のさらなる活躍を願い、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった方または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる方または団体に「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

平成26年度は、平成26年5月上旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書送付、ホームページでも周知を行い、仏教伝道文化賞に22通、沼田奨励賞に14通の推薦書を受領した。この推薦書をもとに、平成26年7月16日に仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、「仏教伝道文化賞」を渡邊寶陽氏に、「仏教伝道文化賞 沼田奨励賞」をジェローム・デュコール氏に贈ることを決定し、10月17日、仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金、記念品を贈り表彰した。

各受賞者の受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞

受賞者 : 渡邊寶陽 氏

受賞理由: 法華経研究、日蓮教学の分野で多大なる業績をあげ、立正大学学長として後進の育成に尽力する。

仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

受賞者 : ジェローム・デュコール 氏

受賞理由: 浄土真宗信楽寺サンガの代表で、仏典をフランス語訳し、仏教を西洋文化圏に弘める。

◆助成事業に関する事項

◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ちその活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。

平成26年度は、平成26年2月17日と平成26年11月7日に開催された助成金審査委員会の決定に基づき以下の法人・団体に対して、国内1,055万円、海外US\$253,000、CA\$26,700、€ 317,400、£ 30,000の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈国内〉

公益財団法人全国教誨師連盟
東京親鸞会
日本印度学仏教学会
南無の会
公益財団法人中村元東方研究所
特定非営利活動法人日本国際文化遺産協会
東洋大学仏教会
ひとさじの会（社会慈業委員会）
フリースタイルな僧侶たち
学校法人花園学園 花園中学高等学校
向源実行委員会
身延山学園身延山大学
全日本仏教青年会

〈海外〉

米国仏教大学院（沼田恵範教授基金設立事業）
米国仏教大学院（『Pacific World』刊行事業）
カリフォルニア大学バークレー校
（Toshihide Numata Book Prize in Buddhism）
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 仏教学センター
シカゴ大学神学部
ハンブルク大学（「沼田日本仏教講座専任教授」設立プロジェクト）
ロンドン大学
ウィーン大学（「沼田仏教講座基金」）
ウィーン大学（「沼田仏教講座活動助成」）
トロント大学

◇世界沼田仏教講座コーディネーター会議について

仏教伝道協会では、日本仏教精神とその文化を広く世界に広め、学術振興をはかることを目的に、北米・欧州における主要大学の仏教講座開設と運営に積極的に協力している。当協会の助成により、1984年、アメリカのカリフォルニア大学

パークレー校に「沼田仏教講座」を初めて開設。以来、世界の主要大学に講座開設を広げ、現在ではアメリカに7校（カリフォルニア大学パークレー校、ハーバード大学、シカゴ大学、スミス大学、ハワイ大学、米国仏教大学院大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校）、カナダに3校（トロント大学、カルガリー大学、マギル大学）、欧州に5校（オックスフォード大学、ロンドン大学、ハンブルグ大学、ライデン大学、ウィーン大学）が開設され、世界の15大学で講座が運営されている。（オックスフォード大学、ロンドン大学、ハーバード大学、ハンブルグ大学においては沼田仏教講座専任教授職が設立されている）

この沼田仏教講座運営に関する状況、課題、意見など情報交換、共有を行うとともに、今後の充実発展に資するため、2014年8月19日、講座開設から30年目にして初めてとなる、世界沼田仏教講座コーディネーター会議を国際仏教学学会（International Association of Buddhist Studies）に併せてウィーンで開催した。

世界の沼田仏教講座開設大学15校のうち11校13名のコーディネーターと海外の仏教伝道協会協力機関から関係者9名の総勢22名が出席。各大学より、どのように沼田仏教講座の運営をしているかの説明がなされた後に、沼田仏教講座が今後考える事、進むべき方向性など意見交換がなされた。

この講座を各大学でコーディネートする教授は、沼田仏教講座を通して学んだ研究者や仏教伝道協会の外国人留学生奨学金の受給生が多く、世界を代表する仏教学者として各国の一流大学で活躍している。沼田仏教講座をはじめとする仏教伝道協会が世界における仏教の学術振興に果たしている役割は大きいと言える。

翌20日には、国際仏教学会で英訳大蔵経、奨学金制度など仏教伝道協会が展開する国際活動について過去50年を振り返る発表があり、多くの研究者が興味深く耳を傾けた。

仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

◆啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会、イベント等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学ぶことを目的とし、平成23年9月より月1回（8月を除く毎月第4木曜日、午後6時30分から午後8時まで）「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。ホームページや新聞などで案内し、毎回約30人（参加費500円）が毎月参加している。

平成26年度は、前年度に引き続きご講師にケネス田中師を招き、当協会が過去にアメリカでの放映を目的として作成したTV説法「Mutually Sustaining Life ~A Buddhist Call to a Troubled World~」をテキストとして、映像とリスニングに重点を置き、講座を進めた。講座参加者数は、255名であった。

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが自ら体験することによって、聞・思・修一体となった仏道を体験していただき、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派の僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

平成26年度は、平成26年6月4日から6月6日の2泊3日間、「布教伝道」をテーマ

に伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「布教伝道 ～臨済禅に学ぶ～」をテーマに掲げ、タイ国からの僧侶1名を含む、全国より宗派を超えて59名の僧侶が参集。臨済宗妙心寺派大本山妙心寺を会場に第44回実践布教研究会を開催した。花園大学名誉教授 西村恵信先生「布教伝道 禅に学ぶ」、花園大学教授 佐々木閑先生「日本仏教の未来」、花園大学教授 安永祖堂先生「臨済禅のこころ」としてそれぞれ講話をいただき、臨済宗妙心寺派管長 嶺興嶽猊下より参加者に向け御言葉を頂戴した。また坐禅も体験した。分科会では「日本仏教の未来 ～僧侶の原点を考える～」をテーマに、参加者同士の活発な意見交換が行われ、宗派を越えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として不特定多数の一般の方を対象にホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。平成26年度はご講師に一島正真師、ケネス田中師を招き、12回開催し、のべ331名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的とし、おもに事業経営者や社会人を対象に案内状や当財団のホームページ等で周知し、仏教聖典を基本教材に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。平成26年度はご講師に木村清孝師、逸見道郎師を招き、8月を除く11回開催し、のべ345名の参加があった。また8月は夏季研修会として8月10日に京都府 天台宗寂光院門跡、天台宗三千院門跡、浄土真宗本願寺派本願寺、天台宗妙法院門跡、三十三間堂を訪ね、妙法院門跡では菅原信海御門主より御言葉を頂戴し、さらに、各寺院では特別拝観をさせていただき、参加者30名は研鑽を積みつつ親睦を深めた。

◇働くひとのための坐禅会について

平成25年度より新たな企画として、現代社会において日々忙しく働く女性の疲れた頭やこころを、坐禅を通じて整理していただき、また仏教に親しみをもってもらうことを目的に専任の講師を招き、仏教聖典を使用した法話20分、坐禅40分、茶話会30分の構成で「忙しい女性のための坐禅会」を企画実施してきた。

1年間の実施経験とまた男性からの参加希望要求を受け、今日の社会においてさまざまな環境下でストレスを溜め込み、こころに余裕を持つことが出来ない方がたのため、男女問わず不特定多数の一般の方を対象とし、ホームページや業界誌などで周知し、平成26年度は、前年度に引き続きご講師に阿 純章師を招き、「働くひとのための坐禅会」（毎月1回、8月と10月を除く第3火曜日、午後8時から午後9時30分まで）として窓口を広げた。講座参加者数は、155名であった。

◇BDKシンポジウムの開催について

平成26年度の年間テーマを「私と仏教」とし、メディアや現場で活躍中の著名人を講師とし、3回のシンポジウムを企画。それぞれテーマに副題を設け、「自分にとっての仏教」という問いを基軸に、経験や思いを語ってもらった。

第1回（平成26年5月16日開催）は、執筆活動でも活躍される、弁護士の大平光代氏を講師に招き、「私と仏教：仏教の智慧で暮らしを豊かに」を開催。講演では、忙しくまた苦しみの多い日常の中で、仏教の智慧でいかに心豊かに暮らしていけるのかということ、自身の経験をもとにお話された。どんなに辛いことがあるとも、その中にこそ幸せがあるというメッセージが会場に響き渡った。

続く第2回（平成26年9月3日開催）は、評論家としてメディアで活躍される宮崎哲弥氏を講師に招き、「私と仏教：なぜ「必要」なのか？」を開催。この講演では、自身の経験の中で培われた仏教の必要性についてお話いただいた。幅広い知識と深い仏教哲学によって確立された宮崎氏の独自の見解は、新しい視点で現代社会を理解し、より良く生きるヒントを来場者に提示された。

平成26年度最後となる第3回（平成27年3月17日開催）のシンポジウムでは、「私と仏教：生きづらい社会を生きるために」と題して、精神科医として、またメディアでも活躍される香山リカ氏を講師に迎え、医療の立場から仏教の必要性を語っていただいた。精神科医の経験から講演される香山氏の言葉には、説得力があり、仏教には素晴らしい潜在性があるという希望が来場者と共に再考された。

なお、本シンポジウムの開催は、不特定多数の一般の方を対象とし、ホームページや業界誌などで周知し、定員は各120名だったが、毎回140名を超え、出席者からは「今後もシンポジウムを続けて欲しい」との声が多く寄せられた。

各シンポジウムのテーマと開催日時は下記の通り。

平成26年度第1回BDKシンポジウム

テーマ：「私と仏教：仏教の智慧で暮らしを豊かに」

開催日：平成26年5月16日（金）

時間：13：00～15：00

講演者：大平光代（おおひら みつよ）

略歴：1965年兵庫県生まれ。2003年12月～2005年10月まで大阪市助役。

中央仏教学院通信教育部専修過程卒業。弁護士。龍谷大学客員教授

平成26年度第2回BDKシンポジウム

テーマ：「私と仏教：なぜ「必要」なのか？」

開催日：平成26年9月3日（金）

時間：18：00～19：40

講演者：宮崎哲弥（みやざき てつや）

略歴：評論家。1962年福岡県生まれ。慶応義塾大学文学部社会学科卒業。

政治哲学、仏教論、サブカルチャー分析を主軸とした評論活動をテレビ、新聞、雑誌などで行う。

平成26年度第3回BDKシンポジウム

テーマ：「私と仏教：生きづらい社会を生きるために」

開催日：平成27年3月17日（火）

時間：18：00～20：00

講演者：香山リカ（かやま りか）

略歴：精神科医・立教大学現代心理学部教授。1960年北海道生まれ。東京

医科大学卒業。豊富な臨床経験を活かして、現代人の心の問題を中心にさまざまなメディアで発言を続けている。専門は精神病理学。

◇国際研究集会ワークショップ「Asian Buddhism: Plural Colonialisms and Plural Modernities」開催について

龍谷大学アジア仏教文化研究センター（BARC）との共催のもと、仏教を学術面から世界に発信する人材育成のため、国内外で日本近代仏教史を研究する若手研究者を集め、「Asian Buddhism: Plural Colonialisms and Plural Modernities（邦題 アジアの仏教：複数の植民地主義と複数の近代性）」と題した国際研究集会ワークショップを2014年12月12日（金）～14日（日）に京都大学人文科学研究所と龍谷大学を会場に開催した。80名を超える参加者があり、若手仏教研究者の大きな経験となるワークショップであった。

◇仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤の確立を目指し、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

平成26年度は、次年度の仏教伝道協会設立50周年に向け、音楽普及委員会を開き様々なアイデアを寄せ合った。

◇三田落語会の事業について

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣はじめ一般の方々に楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、平成24年4月から当財団の主催として「三田落語会」を開催運営している。

平成26年度は4月、6月、8月、10月、12月、2月の計6回開催し、のべ約1,811名の来場者があり、好評を得ている。

◇写真展「ブッダのことばとインドの風景」開催について

平成23（2011）年3月11日の東日本大震災発生以降、当協会では、義捐金や大学生を募り、宮城県気仙沼市でボランティア活動を実施するなど、被災地支援のために微力ながら尽くしてきた。この被災地復興支援の思いを継続すべく、平成26年度は、震災により傷つき、苦しんでいる方がたの心に寄り添い、慈愛と真理に溢れたブッダのことばと情景豊かなインドの写真を通して、癒しと生きる活力を得ていただきたいと願い、協会設立50周年記念事業のひとつとして、「写真展 ブッダのことばとインドの風景 ～今を生き抜くために～」を公益財団法人中村元東方研究所のご協力を得て企画、開催した。

インド思想と仏教学の世界的権威である中村元博士が翻訳されたブッダのことばと、インドの取材写真による写真展「釈尊の足跡をたどって」で、アメリカ・プロフェッショナル写真家協会賞を受賞された写真家 丸山勇氏が撮影した仏教の聖地やインドの風景、風俗、そしてブッダ・お釈迦様の歩まれた足跡を捉えた40点の写真を合わせて展示した。

今回の写真展は、被災地の方がたにより多く見ていただきたいと願い、平成

26（2014）年9月から10月にかけて、岩手県北上市・展勝地レストハウスで高橋敏彦北上市長ご臨席のもと挙行された開会式を皮切りに、岩手県宮古市・シートピアなあと、岩手県釜石市・イオンタウン釜石の3箇所を回り、合計約5,300名にご来場いただいた。

来場者からは、心が洗われるような写真・作品だった、インドは遠いけれども、写真を観て自分もこの地を訪れた様な感じがした、ブッダの深く高尚な教えに改めて感動したなどの感想が寄せられた。

引き続き、東日本大震災から4年にあたる平成27（2015）年3月10日から29日まで東京・相田みつを美術館ギャラリーにて開催。3月11日には、相田みつを美術館 相田一人館長様、写真家 丸山勇様、中村元博士のご息女 三木純子様ご臨席のもと来場者とともに震災の犠牲になられた方がたに黙祷を捧げ、哀悼の意を表した。この相田みつを美術館ギャラリーでは、開催期間中約7,000名のご来場をいただいた。

この写真展の東京開催にあわせ、平成27（2015）年3月14日、東京・よみうりホールにて、著書に「マイ・仏教」などがあるイラストレーターのみうらじゅん氏、独学で仏教を研究し、東京大学で仏教講座を開いたこともあるお笑いコンビ「笑い飯」の哲夫氏（中西哲夫氏）を招きトークイベント「東北復興チャリティー おもしろ仏教講座」を開催。

みうら氏は「仏教について」をテーマに、哲夫氏は「おもしろ仏教講座」と題し、それぞれ独自の観点から話を展開。約1,100名の来場者は終始笑いに包まれつつ、穏やかなムードの中、仏教の一端に触れた。

この写真展開催期間中に寄せられた義捐金、書籍等の売上、トークイベントでの収益2,342,358円はすべて、震災で親を失った児童、学生たちの学業支援のために設けられている「いわて学びの希望基金」へ寄付した。

施設の貸与事業

◆公益目的事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進しもって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献している。

平成26年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は177件であった。

II. 収益事業報告

◆収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間を一般に向けて貸与する事業を行っている。

平成26年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は199件であった。

Ⅲ．事務報告

1．役員等に関する事項

理事・監事

(平成27年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・ 非常勤の別	就任年月日	略歴
代表理事 (会長)	沼田智秀	常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ相談役
理事 (名誉会長)	福山諦法	非常勤	平成25年4月1日	大本山永平寺貫首
理事	木村清孝	非常勤	平成25年4月1日	東京大学名誉教授
理事	上山大峻	非常勤	平成25年4月1日	龍谷大学名誉教授
理事	桂 紹隆	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
理事	門脇邦彦	非常勤	平成25年4月1日	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	平成25年6月25日 (平成25年4月1日監 事就任、平成25年6月2 5日監事辞任、理事就 任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	中谷忠雄	非常勤	平成25年4月1日	元株式会社ミットヨ 代表取締役専務
理事 (常務理事)	生田忠士	常勤	平成25年6月25日	元株式会社ミットヨ取締役
監事	中野東禅	非常勤	平成25年4月1日	竜宝寺住職
監事	松村智司	非常勤	平成25年6月25日	元第一勧業銀行取締役

※理事（名誉会長）福山諦法氏は平成27年3月31日付をもって辞任。

評議員

(平成27年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	山田一眞	非常勤	平成25年4月1日	金剛院院主
評議員	小出忠孝	非常勤	平成25年4月1日	愛知学院大学学院長
評議員	市川智康	非常勤	平成25年4月1日	池上本門寺学頭
評議員	田中教照	非常勤	平成25年4月1日	武蔵野大学学院長
評議員	塩入亮乗	非常勤	平成25年4月1日	浅草寺本堂部
評議員	細川景一	非常勤	平成25年4月1日	花園大学学長
評議員	平田史郎	非常勤	平成25年4月1日	国府台女子学院学院長
評議員	中川 徹	非常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ 代表取締役社長執行役員
評議員	沼田恵明	非常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ 代表取締役専務執行役員
評議員	中川敬史	非常勤	平成25年4月1日	株式会社ミットヨ 取締役上席執行役員

顧問

(平成27年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	金光寿郎	非常勤	平成25年4月1日	NHK放送ディレクター
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	奈良康明	非常勤	平成25年4月1日	駒澤大学名誉教授
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勧学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会前常務理事

※平成25年4月1日就任の顧問の信楽峻磨氏は平成26年9月26日に逝去。

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成26年6月11日（木） （平成26年度第1回通常）	平成25年度事業報告および収支決算報告の件	可 決
	諸規程改定の件	可 決
	平成26年度定時評議員会開催の件	可 決
平成26年11月19日（水） （平成26年度第2回通常）	助成金審査委員会補欠の件	可 決
	助成金交付の件	可 決
平成27年3月25日（水） （平成27年度第3回通常）	平成27年度事業計画および収支予算書承認の件 諸規程の制定および改定の件	可 決 可 決

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成26年6月2日（月）	平成25年度財産状況および業務執行状況	正確であることを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成26年6月26日（木）	平成25年度事業報告および収支決算報告の件	可 決

以 上

平成26年事業報告 附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事 沼田智秀